

全般季節予報支援資料 1か月予報

2025年9月25日

予報期間：9月27日～10月26日

この資料は、気象事業者等が、気象庁の提供する季節予報の根拠を理解するための補助資料であり、そのままの形で一般に提供することを想定して作成したものではありません。

特に注意を要する事項

全国的に、向こう1か月は気温の高い状態が続くでしょう。期間の前半は気温がかなり高くなる見込みです。

出現の可能性が最も大きい天候

北・東日本では、天気は数日の周期で変わるでしょう。

西日本日本海側と沖縄・奄美では、天気は数日の周期で変わり、平年と同様に晴れの日が多いでしょう。

西日本太平洋側では、天気は数日の周期で変わりますが、平年に比べ晴れの日が少ないでしょう。

全般1か月予報(確率)

1か月		気温(%)	降水量(%)	日照時間(%)	降雪量(%)
		低 並 高	少 並 多	少 並 多	少 並 多
北日本	日本海側 太平洋側	10:20:70	40:30:30 40:30:30	30:30:40 30:30:40	
東日本	日本海側 太平洋側	10:10:80	40:30:30 30:30:40	30:30:40 40:30:30	
西日本	日本海側 太平洋側	10:10:80	20:40:40 20:40:40	40:30:30 40:40:20	
沖縄・奄美		10:10:80	20:40:40	40:30:30	

気温	1週目(%)	2週目(%)	3～4週目(%)
	低 並 高	低 並 高	低 並 高
北日本	10:10:80	10:20:70	10:30:60
東日本	10:10:80	10:10:80	10:20:70
西日本	10:10:80	10:10:80	10:20:70
沖縄・奄美	10:10:80	10:10:80	10:20:70

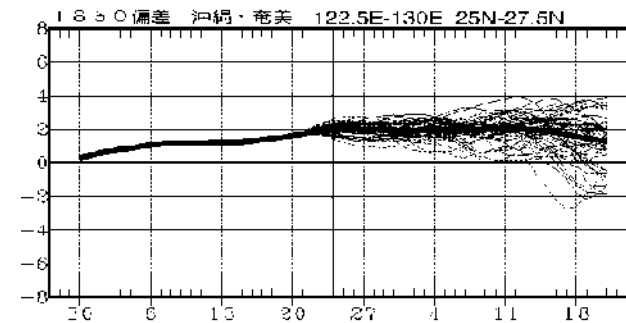
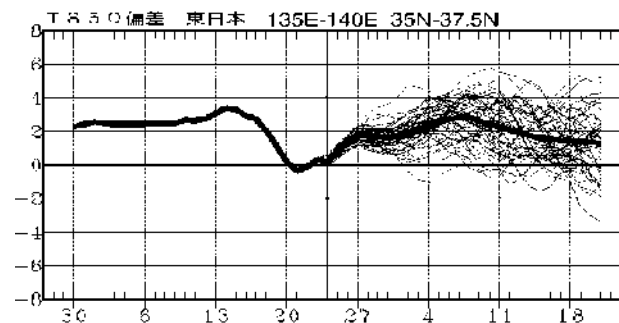
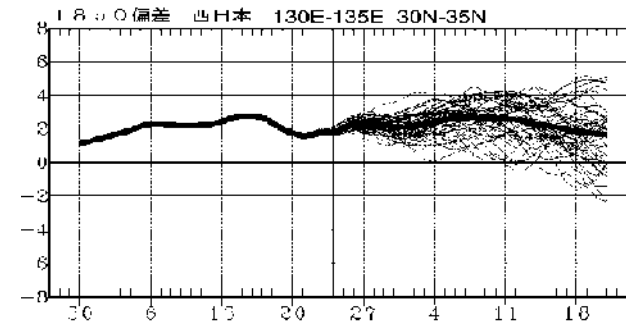
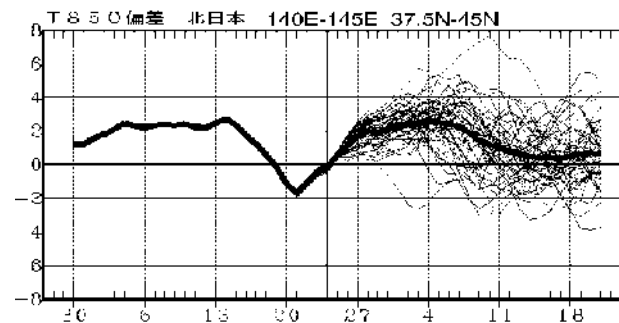
全般1か月予報のポイント

- ・北・東・西日本では6月中旬以降、沖縄・奄美では8月上旬以降、暖かい空気に覆われ、気温の高い状態が続いています。向こう1か月の気温も、暖かい空気に覆われやすいため、全国的に高い状態が続き、期間の前半はかなり高くなる見込みです。
- ・低気圧や前線及び湿った空気の影響を受けやすい時期があるため、向こう1か月の降水量は、西日本と沖縄・奄美では平年並か多く、向こう1か月の日照時間は、西日本太平洋側では平年並か少ないでしょう。

各週における天候のポイント(気温)

	1週目(9/27~10/3)	2週目(10/4~10/10)	3~4週目(10/11~10/24)
想定される天候(気温)	暖かい空気に覆われやすいため、全国的にかなり高いでしょう。	暖かい空気に覆われやすいため、全国的にかなり高いでしょう。	暖かい空気に覆われやすいため、全国的に高いでしょう。
根拠	偏西風が北偏して流れる。北日本を中心に近海の海面水温が高い影響も受ける。(P.8,P.12参照)	偏西風が北偏して流れる。北日本を中心に近海の海面水温が高い影響も受ける。(P.8,P.12参照)	偏西風が北偏して流れる。北日本を中心に近海の海面水温が高い影響も受ける。(P.8,P.12参照)

850hPa気温 偏差時系列

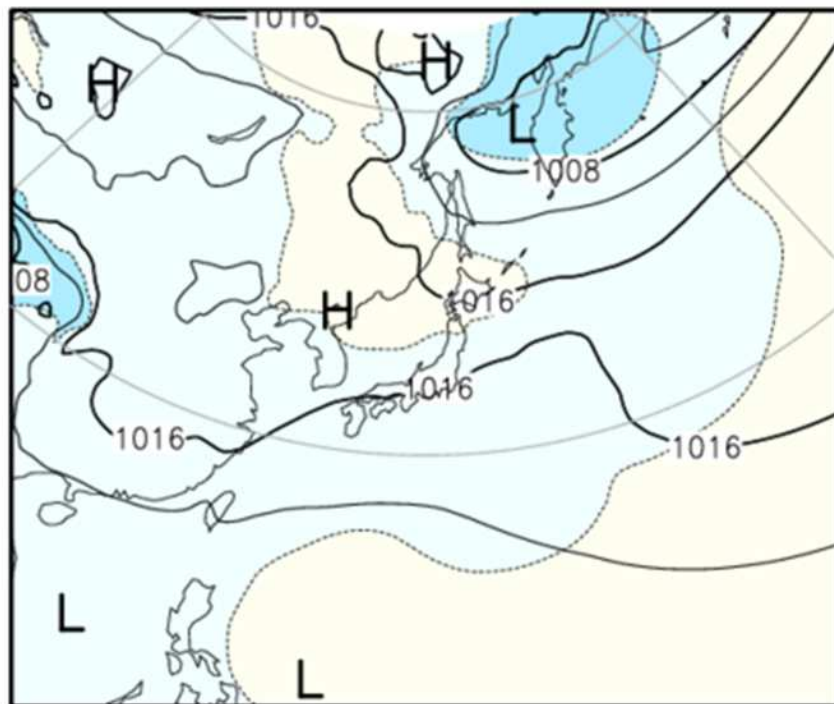


各週における天候のポイント(天気)

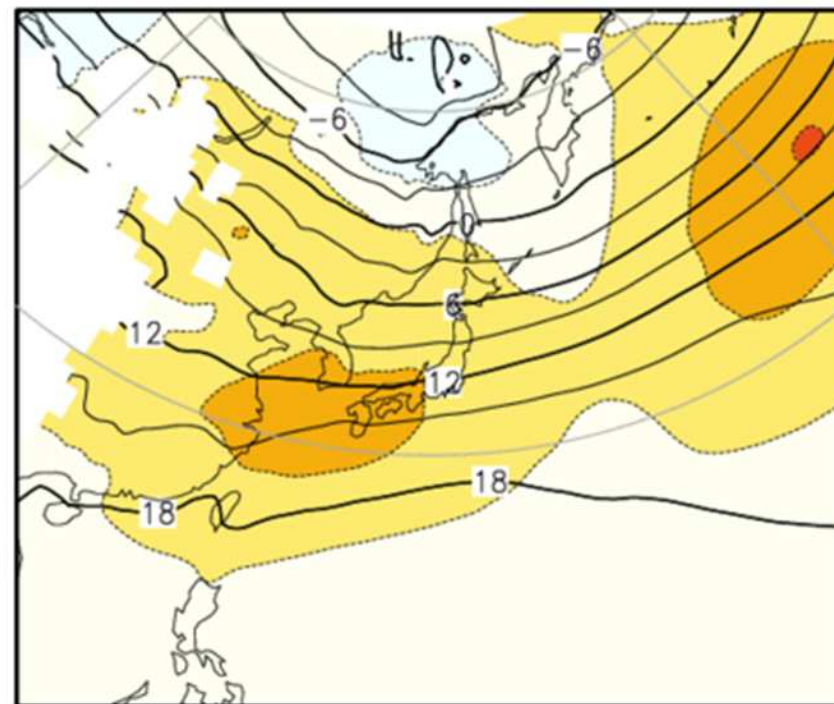
	1週目(9/27～10/3)	2週目(10/4～10/10)	3～4週目(10/11～10/24)
想定される 天候 (天気)	北日本では、天気は数日の周期で変わりますが、高気圧に覆われやすいため、平年に比べ晴れの日が多いでしょう。 東日本では、天気は数日の周期で変わるでしょう。 西日本日本海側と沖縄・奄美では、天気は数日の周期で変わり、平年と同様に晴れの日が多いでしょう。 西日本太平洋側では、天気は数日の周期で変わりますが、湿った空気の影響を受けやすいため、平年に比べ晴れの日が少ないでしょう。	北・東日本では、天気は数日の周期で変わるでしょう。 西日本と沖縄・奄美では、天気は数日の周期で変わり、平年と同様に晴れの日が多いでしょう。	北日本と東日本日本海側では、天気は数日の周期で変わるでしょう。 西日本日本海側と沖縄・奄美では、天気は数日の周期で変わり、平年と同様に晴れの日が多いでしょう。 東・西日本太平洋側では、天気は数日の周期で変わりますが、低気圧や前線及び湿った空気の影響で平年に比べ晴れの日が少ないでしょう。
根拠	北日本では、北海道地方を中心に移動性高気圧に覆われやすい。 西日本太平洋側では、湿った空気の影響を受けやすい。 (P.10-13参照)	全国的に平年と同様の天候。 (P.10-13参照)	東日本太平洋側、西日本と沖縄・奄美では、低気圧や前線及び湿った空気の影響を受ける時期がある。(P.10-13参照)

数値予報モデルからみる全般1か月予報のポイント

海面気圧(1か月)



上空約1500mの気温(1か月)

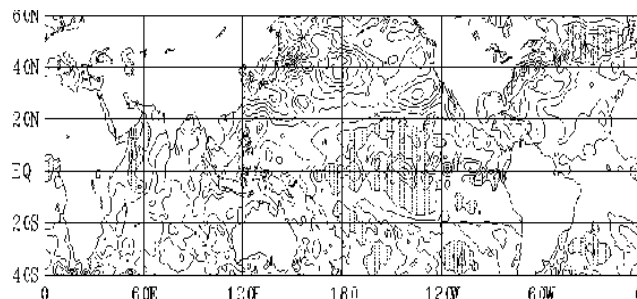


1か月平均の海面気圧(左図)は、沿海州付近から北日本にかけて気圧が平年より高い一方、東日本太平洋側から東シナ海付近にかけては、気圧が平年より低いと予測されています。このため、北日本では、高気圧に覆われやすい時期があるでしょう。一方、西日本と沖縄・奄美では低気圧や前線及び湿った空気の影響を受けやすい時期があるでしょう。

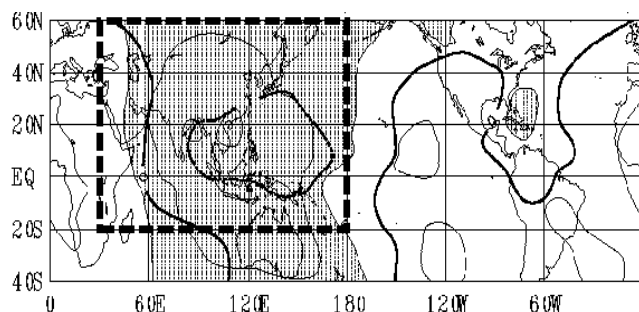
上空約1500mの気温(右図)は、全国的に暖かい空気に覆われやすいため、平年より高いと予測されています。

予報資料の解釈(1か月) 熱帯循環場

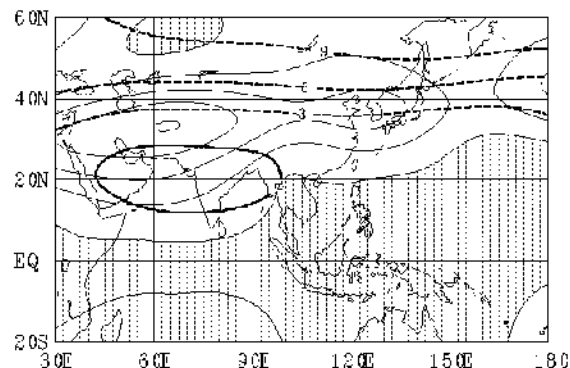
SST偏差



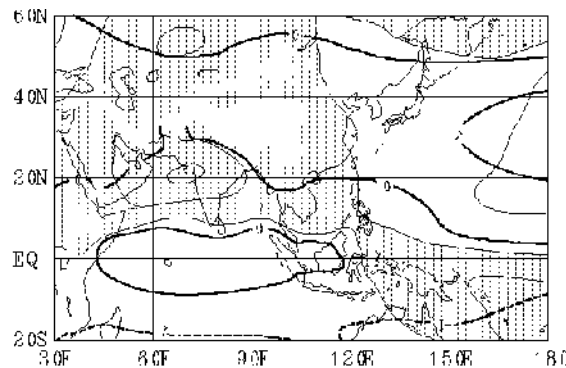
200hPa速度ポテンシャル



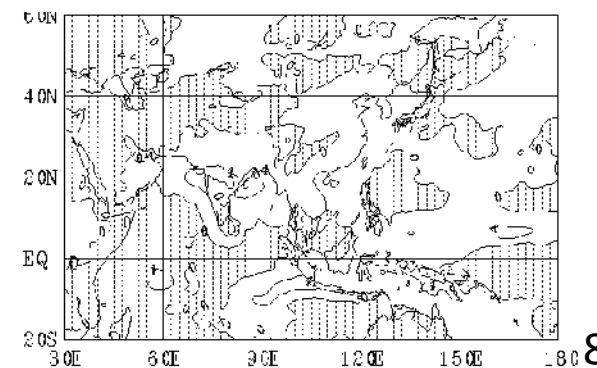
200hPa流線関数



850hPa流線関数



降水量



SST偏差は、ラニーニャ現象的かつ負のインド洋ダイポールモード的な分布。また、日本海から北太平洋中緯度帯で広く強い正偏差。

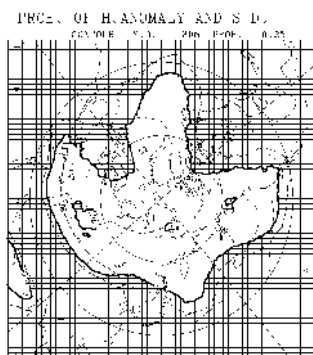
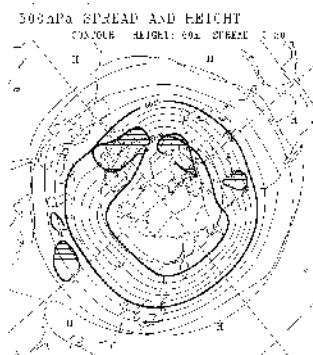
200hPa速度ポテンシャルは、SST偏差に関連し、インド洋東部からインドネシア付近を中心に発散偏差、太平洋熱帯域の中部で収束偏差。

200hPa流線関数は、寒帯前線ジェット気流及び亜熱帯ジェット気流沿いのロスビー波束伝播の影響もあって、朝鮮半島付近を中心に高気圧性循環偏差。

850hPa流線関数は、対流活動に関連しインド洋から南シナ海付近にかけて低気圧性循環偏差。一方、日本の南東海上では高気圧性循環偏差。

降水量は、インドから南シナ海付近で多雨偏差、沖縄・奄美から西日本でも多雨偏差。

予報資料の解釈(1か月) 北半球循環場

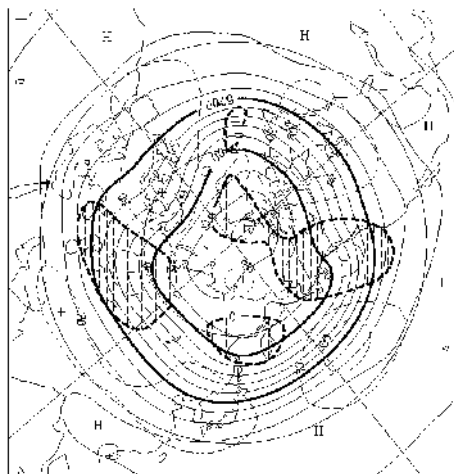


500hPa高度は、西シベリアで負偏差、中央シベリアから日本付近にかけて正偏差。また、日本付近は、広く正の高偏差確率50%以上の領域に覆われる。

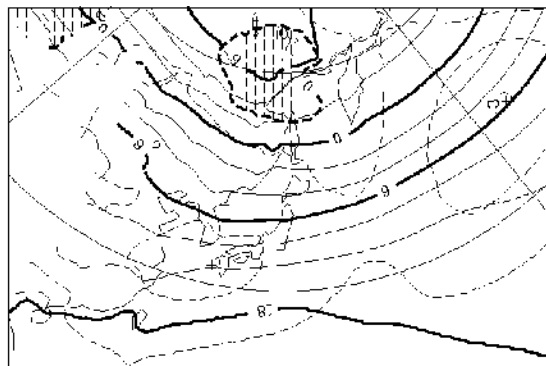
850hPa気温は、日本付近は正偏差。

海面気圧は、沿海州から北日本付近にかけて高気圧があり、北日本では、高気圧に覆われやすい時期がある。一方、東日本太平洋側から東シナ海付近にかけては、高気圧の南縁で気圧が平年より低いため、西日本と沖縄・奄美では、低気圧や前線及び湿った空気の影響を受けやすい時期がある。

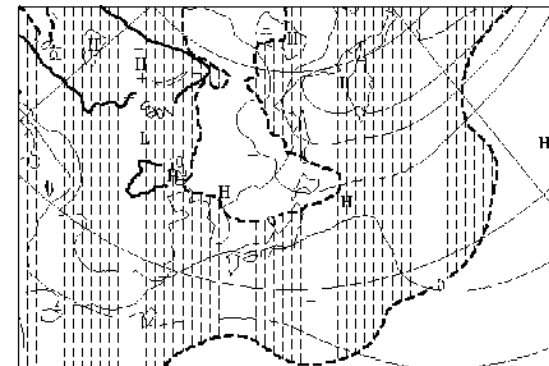
500hPa高度



850hPa気温

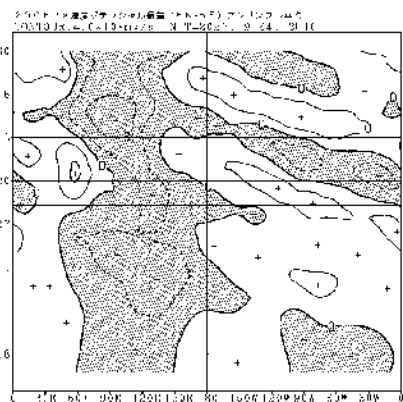


海面気圧



予報資料の解釈(各週) 熱帯の対流活動

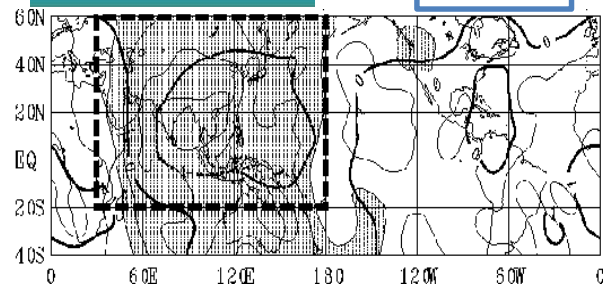
200hPa速度ポテンシャル偏差時系列



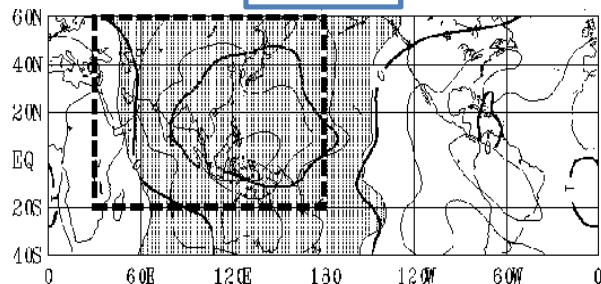
200hPa速度ポテンシャルは、インド洋からインドネシア付近で発散偏差、太平洋熱帯域の中部では収束偏差が持続する。降水量は、インド洋熱帯域の南東部からインドネシア付近にかけて多雨偏差が持続。フィリピン付近では、期間の後半は多雨偏差だが、2週目中心に少雨偏差。日本付近では、1週目は、北海道付近で少雨偏差、3～4週目は、東日本太平洋側から沖縄・奄美付近で多雨偏差。

200hPa速度ポテンシャル

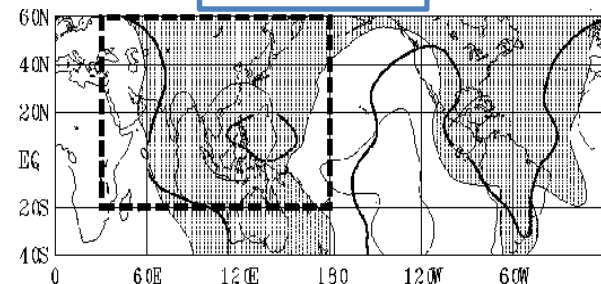
1週目



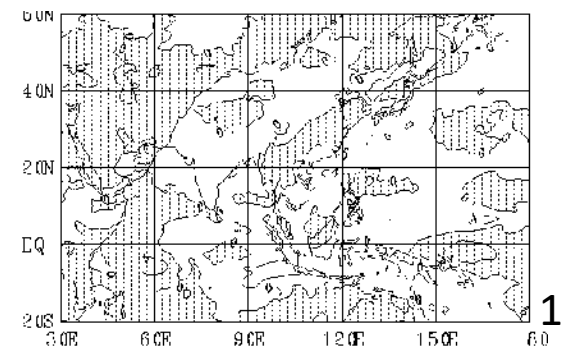
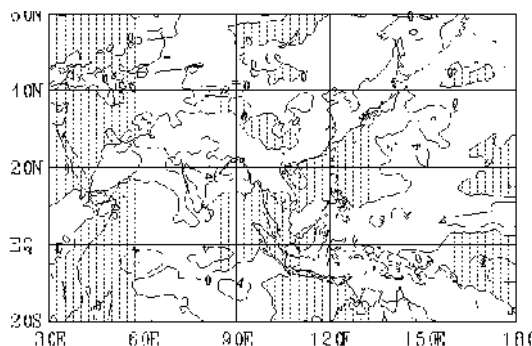
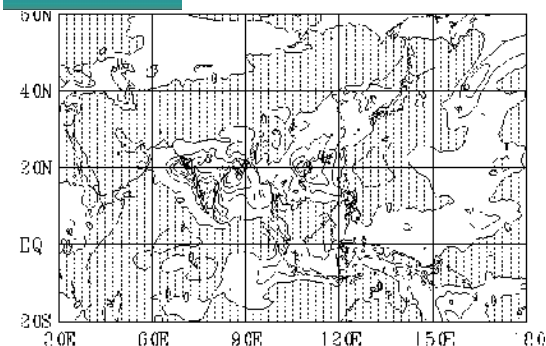
2週目



3～4週目



降水量



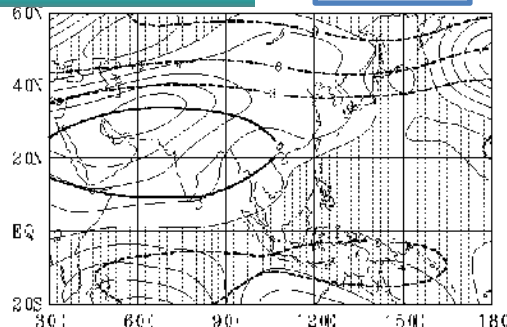
予報資料の解釈(各週) 熱帯循環場

200hPa流線関数は、1週目は、中東や東シナ海を中心に高気圧性循環偏差に覆われる。2週目は、日本付近は北西からの波束伝播の影響を受け、高気圧性循環偏差。3～4週目も日本付近は高気圧性循環偏差に覆われる。

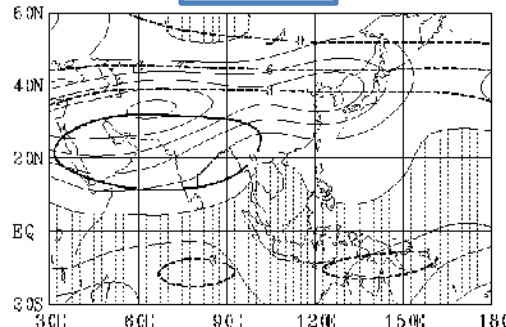
850hPa流線関数は、1週目は、日本の南を中心に高気圧性循環偏差が強い(南シナ海付近の対流活動と上層の高気圧性循環偏差の影響)。2週目は、日本の南にあった高気圧性循環偏差は弱まるが、3～4週目は、フィリピン付近の対流活動が活発化し、日本の南東海上で高気圧性循環偏差が強まる予測。

200hPa流線関数

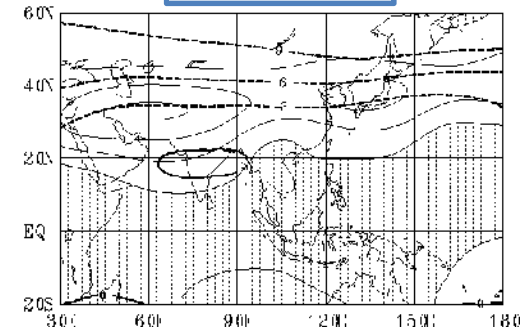
1週目



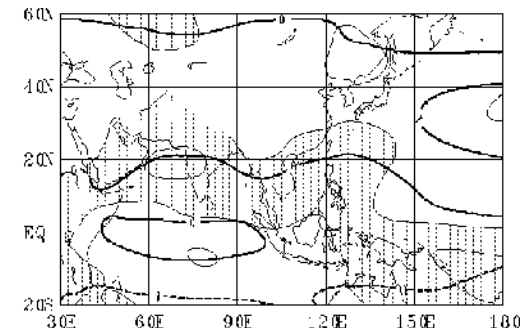
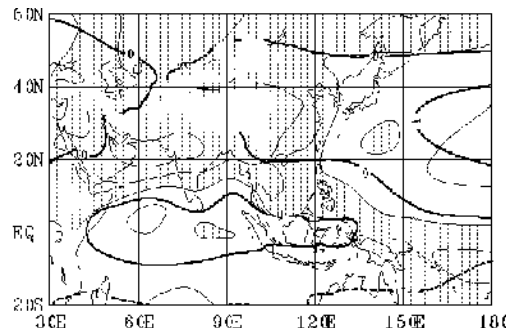
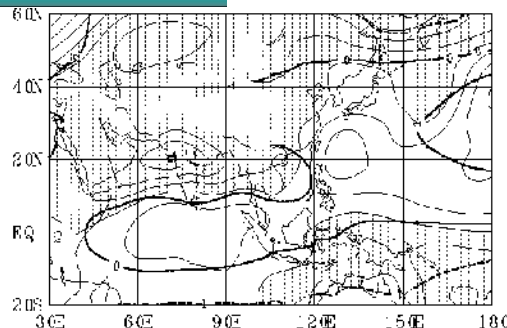
2週目



3～4週目



850hPa流線関数

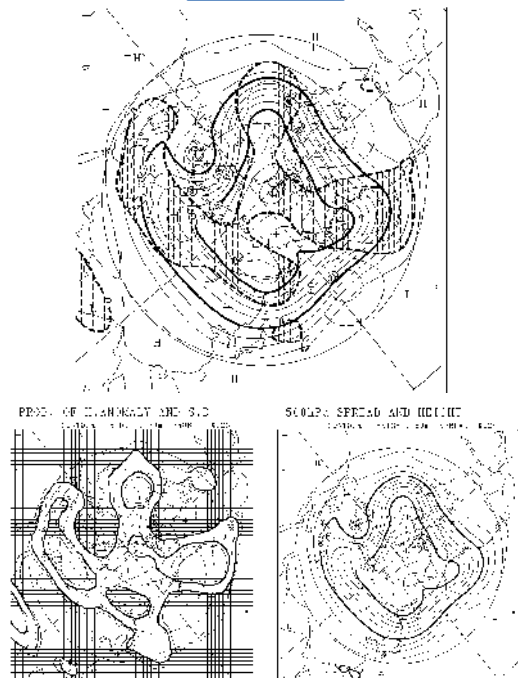


予報資料の解釈(各週) 北半球循環場

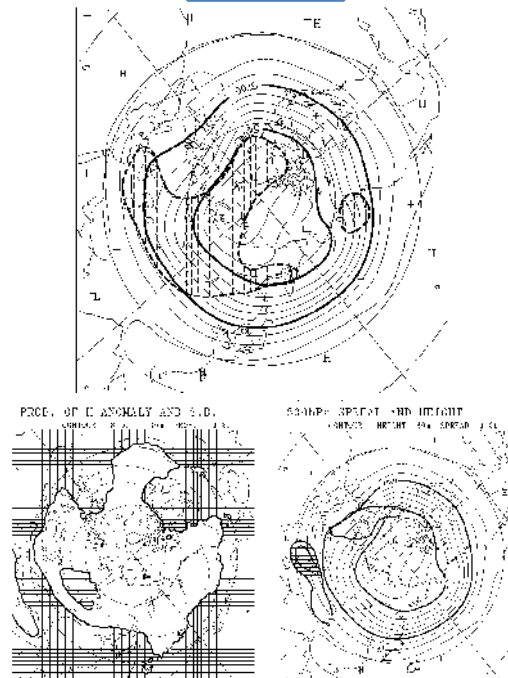
500hPa高度は、日本付近は、1週目を除き、正の高偏差確率50%以上の領域にほぼ覆われる。1週目には正偏差の中心は東シナ海付近にあるが、日本の北では負偏差。なお、期間のはじめはスプレッドの大きな領域が南シナ海付近にあり、熱帯じょう乱の予測の不確実性を示している。2週目には朝鮮半島から日本海付近で高度が高く、平年で見られる日本の西の気圧の谷が浅い。ただし、日本の南東にスプレッドの大きい領域がある。3～4週目は、2週目に比べ、西谷傾向がやや強まる。

500hPa高度

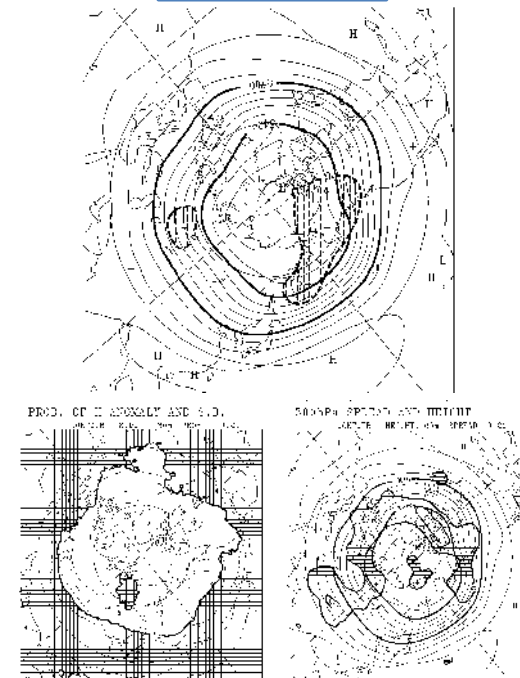
1週目



2週目



3～4週目



予報資料の解釈(各週) 日本周辺循環場

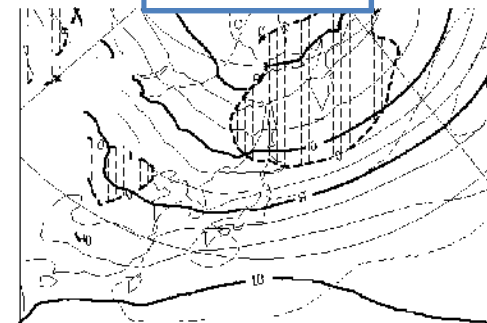
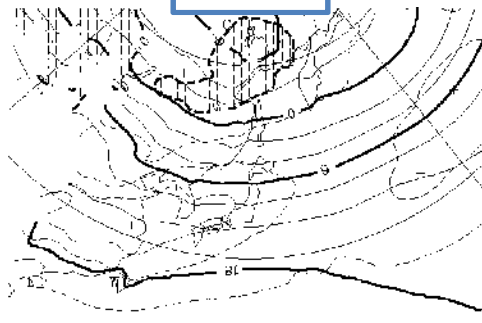
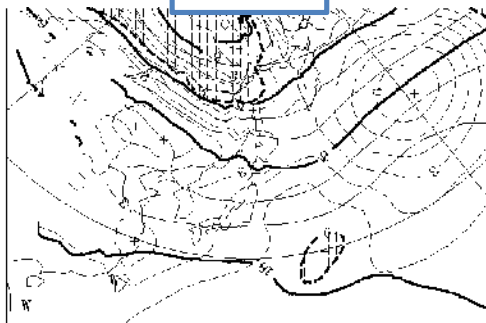
850hPa気温は、日本付近は広く正偏差に覆われるものの、3～4週目は、オホーツク海付近で負偏差。
海面気圧は、1週目は、日本の南海上で高気圧が強く正偏差。ただし、西日本太平洋側では、高気圧の縁を回る湿った空気の影響を受ける時期がある。一方、北海道では移動性高気圧に覆われやすい。2週目は太平洋高気圧が日本の東に後退し、北日本付近は気圧の谷となり、北日本で低気圧や前線の影響をやや受けやすい時期がある。一方、本州付近では気圧の谷は浅く、前線の活動はあまり活発ではないとみる。3～4週目には、日本付近では華北付近の高気圧と日本の南東の高気圧がともに強い一方、本州南岸は高気圧の南縁で東日本太平洋側から沖縄・奄美では気圧の谷となり、低気圧や前線及び湿った空気が流れ込みやすい時期がある見込み。

1週目

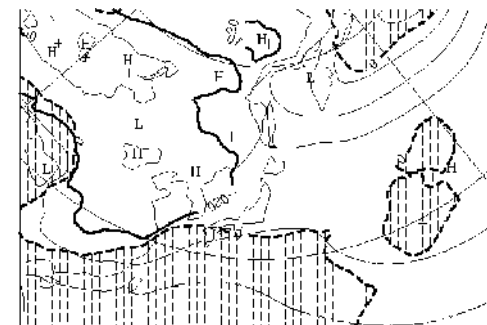
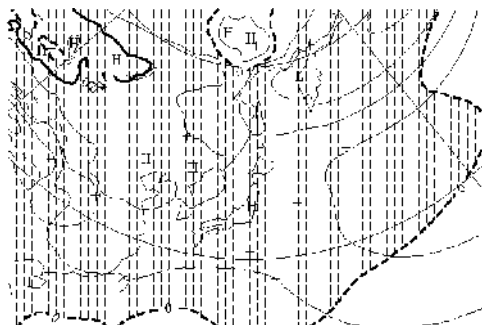
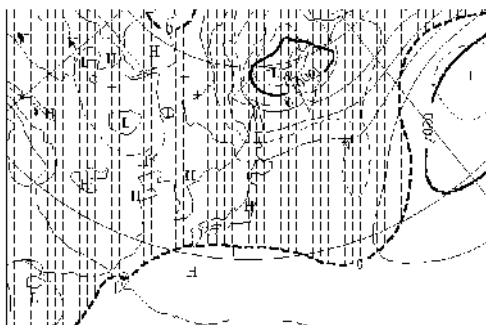
2週目

3～4週目

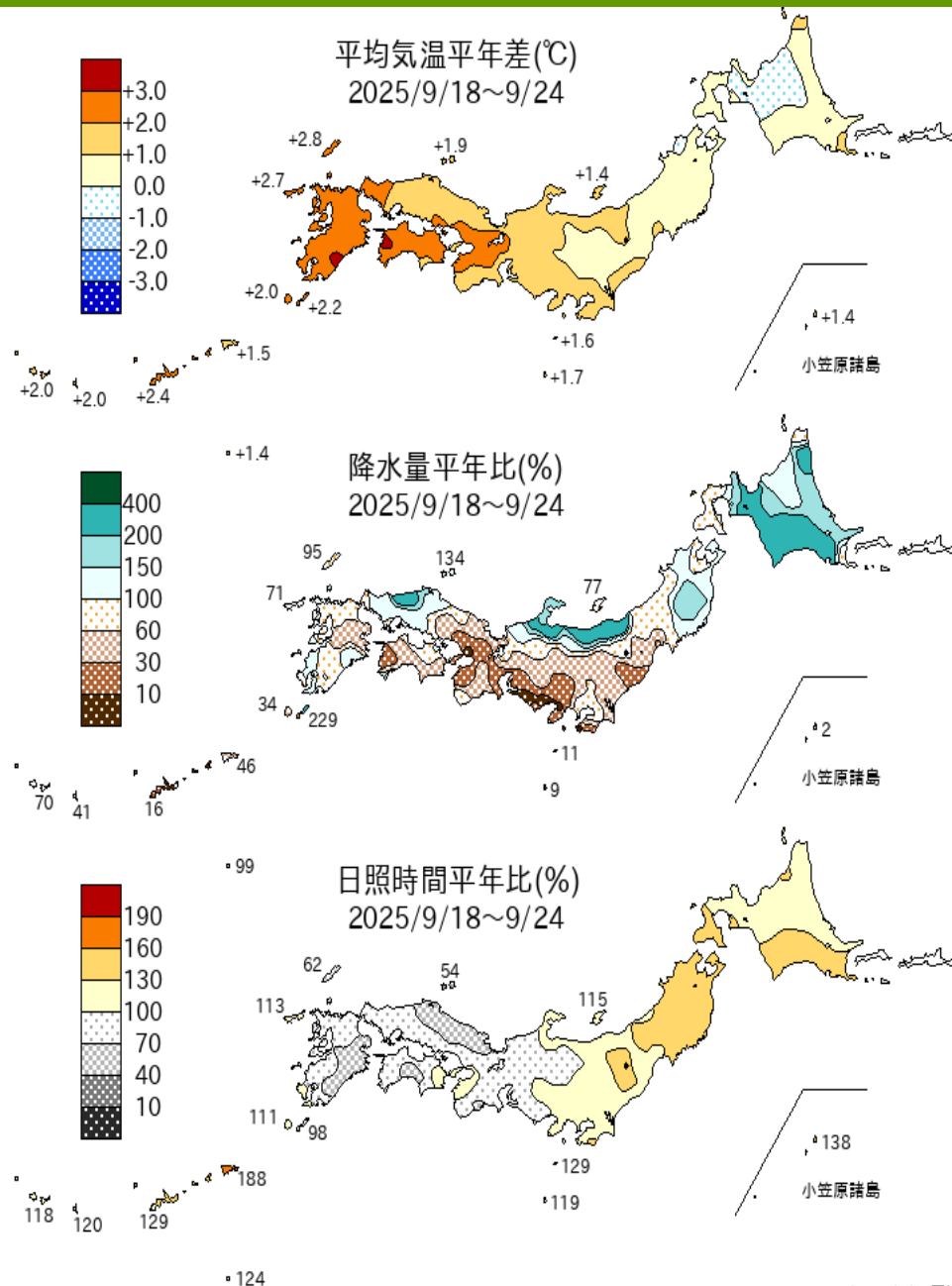
850hPa気温



海面気圧



(参考)最近1週間の天候経過



最近1週間(9月18日~9月24日)は、北・東・西日本では、低気圧や前線と高気圧が交互に通過し、天気は数日の周期で変わりましたが、低気圧の影響を受けやすかった北海道地方では大雨となり、線状降水帯が発生するなど記録的な大雨となった所もありました。沖縄・奄美では、太平洋高気圧に覆われて晴れの日が多くなりました。これらのことから、降水量は、北日本と東日本日本海側では平年を上回った所が多くなった一方、低気圧の影響を受けにくかった東日本太平洋側、西日本と沖縄・奄美では平年を下回りました。また、日照時間は北・東日本と沖縄・奄美では平年を上回りました。気温は、暖かい空気に覆われるとともに、低気圧や前線に向かって暖かい空気が流れ込んだ時期もあり、西日本と沖縄・奄美で平年を大きく上回りました。一方、北海道地方では、寒気が流れ込んだ時期があり、平年を下回った所もありました。